



中央アジア地域ニュース

キルギス：第7回上海協力機構（SCO）首脳会議（8月17日付「ロシア新聞」）

- 8月16日、キルギスの首都ビシュケクで第7回上海協力機構（SCO）首脳会議が開催され、中国の胡錦濤国家主席、ロシアのプーチン大統領、カザフスタンのナザルバエフ大統領、キルギスのバキエフ大統領、タジキスタンのラフモン大統領、ウズベキスタンのカリモフ大統領が出席した。モンゴル、パキスタン、イラン、インドの首脳・代表がオブザーバー参加した他、アフガニスタンのカルザイ大統領、トルクメニスタンのベルディムハメドフ大統領、国連のパスコー事務次長が議長国のゲストとして出席。
- SCOへの新規加盟
新規加盟問題については、議論が少なくとも1年先送りされた。最も加盟に積極的なのはパキスタンのカスリ外相で、メンバーシップ拡大を真剣に検討することを求めたが、今回の首脳会議では具体的決定も採決もなされなかった。今後進展があるとしても、1年後のタジキスタンでの首脳会議か、2009年のロシアでの首脳会議を待たねばならない。
- 安全保障協力
 - 地域の繁栄は域内各国の努力によりもたらされるべきというのが議論の要点であり、ビシュケク宣言にも「中央アジアの安定と安全は何よりも先ず域内で確立された地域機関に基づく域内各国の努力で確保され得る」との加盟国の認識が盛り込まれている。
 - SCOはこれまで反米色を強めてきていたが、今回の会議では抑制的であった。プーチン大統領が、多極的な国際社会の秩序を強化する姿勢を強調し、一国のみで世界的・地域的問題を処理しようとするのは無謀であると述べたが、米国への言及は殆どなかった。
 - アフガニスタン情勢が議論され、ゲスト参加のカルザイ大統領が注目された。SCOは将来的にアフガニスタンとの協力を強化しようとしている。プーチン大統領は、特別会合開催による対アフガニスタン支援の協議とアフガニスタンを取り巻く反麻薬ベルトの創設作業を継続すべきであると述べた。
 - SCOは合同での即応体制の整備による安全保障能力の向上を目指しており、このためにロシアのチェリャビンスク州で合同反テロ演習を行っている。プーチン大統領は、同様の演習を域内各国で定期的実施し、反テロ・ネットワークを形成することを提案した。
- 経済協力
 - プーチン大統領は、エネルギー対話や「エネルギー・クラブ」の創設が今後のSCOの重要課題であると述べた。採択されたビシュケク宣言でも、エネルギー分野での協力がSCOと世界の平和・安定に繋がるとの言及がある。
 - カザフスタンのナザルバエフ大統領はSCO加盟国首脳に「アジア・エネルギー戦略」の案文を手交した。同戦略は、協力のためのデータ蓄積等を行うシンクタンクの設置を提案するもので、その前提になるのはSCO域内のパイプライン・システムと中央アジアの豊富なエネルギー資源である。
 - ウズベキスタンのカリモフ大統領は、環境汚染及びウズベキスタン等の一部の国での水不足という観点から、中央アジア河川での水利施設建設に懸念を表明した。同大統領は隣接諸国での水力発電所の建設を喜んでいない。